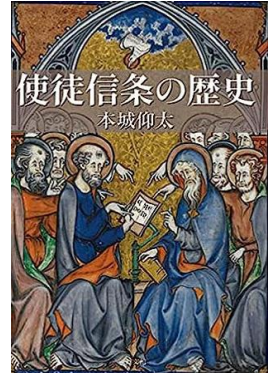


「使徒信条の伝説」(2025. 4. 20)

～我らはかく信じ、代々の聖徒と共に、使徒信条を告白す～

日本キリスト教団信仰告白において使徒信条は重要な位置づけにあります。私たちは上掲の言葉を橋渡しにして同前文から使徒信条に移り、礼拝の度毎にこの信条を告白しています。『使徒信条の歴史』(本城仰太著・教文館)のなかに「使徒信条の伝説」という興味深い記事があったので紹介します。



使徒たちが一人一言ずつ信条の言葉を紡ぎ出して「使徒信条」ができたというものです。いくつかの資料があるのですが、『古ガリア典礼』のある「使徒信条」には次のように記されています。

ペトロは言った「わたしは、天地の造り主、全能の父なる神を信じます」

ヨハネは言った「わたしは、その独り子、私たちの主イエス・キリストを信じます。

ヤコブは言った「彼は聖霊によって宿り、処女マリアから生まれ」

アンデレは言った「ポンテオ・ピラトの下で苦しんだ、十字架につけられた、死んだ、葬られた」

フィリポは言った「陰府に降った」

トマスは言った「三日目に死人のうちから甦った」

バルトロマイは言った「天に昇った、全能の父なる神の右に座した」

マタイは言った「そこから彼は生ける者と死せる者とを裁くために来るだろう」

アルファイの子ヤコブは同様に言った「わたしは、聖霊を信じます」

熱心党のシモンは言った「聖なる公同の教会を」

ヤコブの子ユダは言った「聖徒の交わり、罪の赦しを」

同様にトマスは言った「体の甦りを、永遠の命を」

興味深いことに主の復活を疑ったトマスが「甦り」を2回担当しています。この伝説は使徒信条を権威づけるためのものかもしれませんが、しかし教会が激しい異端との戦いのなかでどうしても守らなければならない信条として紡ぎ出した言葉でもあると思います。使徒が一人一言告白した形にするほど、一言ひと言に含蓄があるということです。代々の聖徒に思いを馳せ、2025年度、使徒信条を味わいつつ告白したいものです。